



題 字
宮城県知事 村井嘉浩
発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 一般社団法人 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編集発行人
佐野和夫
印刷所
(株)東北プリント



第32回「仙台牛」の集い

主催/仙台牛銘柄推進協議会 後援/宮城県 全国農業協同組合連合会宮城県本部

第32回「仙台牛」の集い (令和7年2月5日(水) 仙台市 江陽グランドホテル)

もくじ

CONTENTS

令和7年度畜産施策の基本方針と主要施策……………	2-4	価格安定対策事業の発動状況について……………	8
令和7年度畜産・酪農経営安定対策及び		衛生便り……………	9
畜産物価格について……………	4-5	農業大学校生の抱負……………	9
令和7年4月より予防接種生産者負担金に変更にな		畜試便り……………	10
りました……………	5	人の動き……………	11-12
令和7年度宮城県獣医師修学資金受給者募集……………	6		
第32回「仙台牛」の集いが開催されました……………	6		
宮城県への手数料等の納付にキャッシュレス決済が			
利用できます……………	7		
子牛の体温管理に気を付けましょう……………	8		



みやぎの畜産情報発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <https://miyagi-chikusan.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



令和7年度 畜産施策の基本方針と主要施策

宮城県農政部畜産課
宮城県農政部家畜防疫対策室

I 基本方針

本県の畜産は、新・宮城の将来ビジョンで掲げる「富県宮城の躍進」の達成に向けた重要な基幹産業と位置づけられ、令和5年の畜産産出額は約833億円と県農業産出額全体の約4割を占めるなど、安全で良質な畜産物を消費者に安定的に供給する畜産主産県としての地位を確立しています。

平成23年3月に発生した東日本大震災に起因する東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の影響については、14年を経過した現在でも生産現場に影響を与えていますが、市町で一時的保管されていた農林業系汚染廃棄物の焼却処理、すき込み処理が進められています。

一方、日米貿易協定やCPTPPなどの経済のグローバル化による輸入畜産物との競争、急激な人口減少及び高齢化に伴う担い手の減少、全国で頻発する高病原性鳥インフルエンザや豚熱などの特定家畜伝染病への防疫対応に加え、昨今の輸入飼料をはじめとする畜産生産資材価格や消費者物価の高騰は、生産・流通・消費に多大なる影響を及ぼしており、本県の畜産を取り巻く環境は益々厳しさを増しています。

このため、これらの状況に柔軟に対応するとともに、令和7年度は資材高騰の影響を緩和できる経営体質への転換を図るため、耕畜連携による飼料の自給率向上や有機質肥料の地域利用拡大などを進め、新たに中期実施計画を策定した「新・宮城の将来ビジョン」や、第3期「食と農の県民条例基本計画」の実現に向け、市町村・JA・畜産関係団体との連携を図りながら、次の重点項目に取り組みます。

- 1 国際競争に打ち勝つ儲ける畜産経営の実現
- 2 安全・安心な畜産物の生産支援
- 3 畜産基盤整備による農村の振興
- 4 復興完了に向けたサポート

II 主要施策

1 国際競争に打ち勝つ儲ける畜産経営の実現

儲ける畜産経営を実現するため、実需者を意識した畜産物の生産体制や「仙台牛」に代表される「食料王国みやぎ」の畜産物ブランドの推進、家畜改良による生産性向上や畜産新技術の開発・普及を推進し、新たな国際競争に打ち勝つ畜産経営の体質強化と経営安定を図ります。特に、地域が抱える諸課題の解決と収益性向上を図るため、畜産クラスター事業を積極的に活用し、収益性の高い儲ける畜産経営の実現を支援します。

(1) 儲ける肉用牛経営の実現

現場後代検定で脂肪交雑が日本一となった「茂福久」号に続く優秀な種雄牛造成、産肉能力や繁殖能力に優れた高能力雌牛群の整備、受精卵移植技術の活用、肉用子牛価格の安定、畜産の経営改善と技術向上を図るとともに、脂肪の質や脂肪交雑の形状（小ザシ）などの新たな指標に着目した高品質な肉用牛生産、収益性の高い肉用牛経営の実現を図ります。

○第13回北海道全共出品対策事業

令和9年度に開催される全共北海道大会へ向け、ゲノミック評価に基づく出品牛の選定など、継続的な出品対策を講じることにより、仙台牛の生産基盤強化とブランド力向上を図ります。

○デジタル技術による仙台牛のプレミアム化プロジェクト（仙台牛差別化、改良加速化）

消費者嗜好の多様化や、脂肪の量から質への転換に対応するため、「小ザシ」や「脂肪の質」の改良による「仙台牛」の更なるブランド力向上を推進します。

○肉用牛集団育種推進事業

繁殖農家、肥育農家の協力を得て優れた種雄牛を造成するとともに、能力の高い繁殖雌牛群の整備により、高品質のブランド牛肉「仙台牛」の生産基盤を強化します。

(2) 活力ある畜産の振興

乳用牛の生産能力を高めるための牛群検定の普及・指導強化や、ゆとりある酪農経営実現のための酪農ヘルパー事業への支援を行います。また、県独自の優良種豚の供給、輸入飼料高騰対策として自給飼料の生産拡大や飼料生産組織の規模拡大支援、家畜生産性向上等の取組により、畜産生産基盤の活性化を推進します。

○乳用牛群検定指導強化事業

乳用牛群検定指導員を対象とした研修会の開催や効果的な検定実施体制の整備及び受精卵関連技術を活用した高能力乳用牛の生産を推進します。

○優良種豚選抜推進事業

系統豚「しもふりレッド」、「ミヤギノL2」の種豚や家畜人工授精用精液の供給を通じて、銘柄豚の生産力強化を図ります。

○酪農ヘルパー事業運営強化対策事業

酪農経営における「働き方改革」を推進するため、酪農ヘルパー事業によるゆとりある持続性の高い酪農経営の実現を図ります。

○酪農暑熱対策推進事業

近年問題となっている夏季の高温に対応するため、酪農における暑熱対策設備の導入支援や実証展示を通じて、技術の普及を図ります。

○自給飼料生産総合推進事業

輸入飼料価格高騰への対応として、稲ホークロップサイレージや飼料用米のほか、水田における子実用トウモロコシの生産・利用促進、食品残さなど未利用資源の飼料化（エコフィード）の拡大と飼料作物の優良品種の普及拡大を推進します。

○県産飼料増産プロジェクト推進事業

県産飼料の増産に向け、牧草地の改良や、飼料生産組織の育成・拡大を支援し、自給飼料の生産推進を図ります。

○家畜由来堆肥活用促進事業

有機センターの製品堆肥の利用拡大と利便性向上の支援により、地域内の有機物の有効活用を図り、化学肥料の低減や有機質肥料の利用拡大による持続可能な農業を推進します。

○多様で特色ある県畜産物の生産消費促進事業

持続的な地産地消を推進するため、意欲ある中小規模の採卵養鶏、養豚生産者が取り組むICT導入による労働生産性向上、食品産業との連携強化を支援します。

(3) 畜産新技術の開発・普及

畜産試験場における試験研究体制を整備し、新たな畜産技術の開発と普及を推進することにより、国内外の産地との競争力強化や自給飼料確保による生産性向上を進めます。

○県単独試験研究費・受託試験研究費

本県の特徴を活かした畜産物の生産性向上と高品質化のため、牛の受精卵移植技術の活用やゲノミック評価技術の開発に取り組みます。また、新たなデュロック種系統豚の造成試験や、ICT技術を活用した乳牛の飼養管理試験により、家畜の生産性向上のための技術普及を図ります。さらには、豪雨等の気象災害発生時における牧草収量の低下を防ぐ新たな栽培体系の実証や、農業者ニーズに対応する家畜由来堆肥を使用した特殊肥料入り指定混合肥料の普及拡大に取り組むほか、国の試験研究機関や大学との共同研究等による新技術の研究開発を推進します。

2 安全・安心な畜産物の生産支援

豚熱、高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病の発生予防とまん延防止を図るため、各種伝染性疾患の検査の実施や飼養衛生管理基準の遵守を指導し、健康な家畜の生産と安全・安心な畜産物の安定供給を推進します。また、畜産物のGAP（農業生産工程管理）の取組や認証取得の支援により、県産畜産物に対する付加価値向上を図ります。

○家畜伝染病予防事業【家畜防疫対策室】

豚熱、高病原性鳥インフルエンザなど牛・豚・鶏・馬・蜜蜂等の各種伝染性疾患の検査と関連する防疫対策を行い、監視伝染病の発生予防とまん延防止を図ります。

○豚熱等発生予防対策事業【家畜防疫対策室】

養豚場での豚熱発生予防を目的とした豚熱ワクチンの離乳豚への継続接種、成豚の補強接種および免疫の獲得状況を把握するための免疫付与状況確認検査に加え、野生イノシシの検査体制の強化と経口ワクチンの散布を実施します。

○仙台家畜保健衛生所移転整備事業

多様化、頻発化する特定家畜伝染病等に対応するため、県内で唯一の病性鑑定機能を有する仙台家畜保健衛生所を、バイオセキュリティレベル基準を満たした施設として運用を開始し、検査の安全性及び効率性を確保します。

また、特定家畜伝染病発生時の迅速な初動資機材供給に資するため、防疫資材倉庫を新たに運営します。

○GAP認証取得推進事業（畜産物）

日本版畜産GAPの普及推進を図るため、制度の周知とともに指導員等の養成による推進指導体制の構築を進めます。

3 畜産基盤整備による農村の振興

生産基盤や畜産関連施設の整備を行い、地域の核となる畜産経営体を育成し、活力ある農村の再生を図ります。

○資源リサイクル畜産環境整備事業

広域たい肥センターのうち、老朽化の進んだ施設や機械等の機能保全と長寿命化を図ります。

4 復興完了に向けたサポート

復興完了に向けたサポートを推進するため、汚染稲わら等の適正な保管・処理を進めます。また、放射性物質検査を通じて畜産物の安全性を確保するとともに、牛肉の円滑な出荷体制を確立します。

○放射性物質影響調査事業

粗飼料や原乳等の放射性物質濃度を測定するとともに、放射能の影響を低減するための飼料作物の栽培管理等の指導を行います。

○給与自粛牧草等処理円滑化事業

放射性物質に汚染された稲わらについて、最終処分されるまでの間、適切な一時管理を実施するため、一時管理施設の保守点検や施設補修等の維持管理を実施します。

○肉用牛出荷円滑化推進事業

県産牛肉の安全性を確保するため、県内の食肉市場に出荷される検査対象牛について放射性物質検査を実施します。

(企画管理班 齊藤 陽介)

令和7年度畜産・酪農経営安定対策及び畜産物価格について

宮城県農政部畜産課

農林水産省は令和6年12月に、令和7年度の畜産・酪農経営安定対策及び畜産物価格を決定しました。

1 酪農関係対策

「加工原料乳生産者補給金制度」については、生産者補給金が生乳1kg当たり9円9銭、集送乳調整金が生乳1kg当たり2円73銭となります。また、昨年度に引き続き、物流2024年問題による集送乳経費の上昇に対応するため、「生乳流通改善緊急事業」により生乳1kg当たり8銭の奨励金が交付されます。生産者補給金集送乳調整金と生乳流通改善緊急事業奨励金の合計は生乳1kg当たり11円90銭となり、昨年度に比べ23銭の引き上げとなります。

なお、「加工原料乳生産者経営安定対策事業」も継続し実施されます。この対策により、加工原料乳(脱脂粉乳・バター等向け、チーズ向け及び生クリーム等液状乳製品向けの生乳)の取引価格が、補てん基準価格である全国の直近3年間の平均取引価格を下回った場合に、生産者と国による積立金から、その差額の8割が補てん金として交付されます。

2 肉用牛関係対策

「肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)」は、肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合(月毎)、その差額の9割が交付金として交付される制度です。なお、交付金のうち4分の1に相当する額は、生産者の積立金から支出されます。

また、「肉用子牛生産者補給金制度」も継続し実施されます。この制度により、肉用子牛(黒毛和種、褐毛和種、その他の肉専用種、乳用種、交雑種)の平均売買価格が保証基準価格を下回った場合(四半期毎)、生産者に対してその差額が生産者補給金として交付されます。

3 養豚関係対策

「肉豚経営安定交付金制度(豚マルキン)」は、肉豚1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合(四半期毎)、その差額の9割が交付金として交付される制度です。なお、交付金のうち4分の1に相当する額は、生産者の積立金から支出されます。

4 採卵養鶏関係対策

「鶏卵生産者経営安定対策事業」は、鶏卵の標準取引価格(月毎)が補てん基準価格を下回った場合、生産者と国による積立金からその差額の9割(補てん基準価格と安定基準価格の差額の9割を上限とする)が補てんされる制度です。また、鶏卵の標準取引価格(日毎)が安定基準価格を下回った場合、その下回る日の30日(10万羽未満飼養生産者は40日)前から、安定基準価格を上回る日の前日まで(ただし、安定基準価格を上回る日の前日までに、食鳥処理場に予約されている場合は、安定基準価格を上回った日から起算して30日(10万羽未満飼養生産者は40日)後まで)に、更新のために成鶏を出荷し、その後60日以上空舎期間を設ける取組を行った場合に、表1のとおり奨励金が交付されます。さらに、食鳥処理場への奨励金として1羽あたり47円が交付されます。

表1. 奨励金単価

空舎期間	10万羽以上飼養生産者	10万羽未満飼養生産者
60日以上 90日未満	210円/羽	310円/羽
90日以上120日未満	420円/羽	620円/羽
120日以上150日未満	630円/羽	930円/羽

5 令和7年度畜産物価格

(1) 加工原料乳生産者補給金及び集送乳調整金の単価並びに総交付対象数量

区 分	令和6年度	令和7年度
総交付対象数量	325万トン※	325万トン※
生産者補給金の単価	8.92円/kg	9.09円/kg
集送乳調整金の単価	2.68円/kg	2.73円/kg
ALIC事業奨励金の単価	0.07円/kg	0.08円/kg

※別途ALIC事業で18万トンを上乗せするため、実質343万トンとなる。

(2) 肉用子牛の保証基準価格及び合理化目標価格

(単位：円/頭)

区 分		令和6年度	令和7年度
保証基準 価 格	黒毛和種	564,000	574,000
	褐毛和種	514,000	523,000
	その他の肉専用種	328,000	334,000
	乳用種	164,000	164,000
	交雑種	274,000	274,000
合 理 化 目 標 価 格	黒毛和種	444,000	446,000
	褐毛和種	404,000	406,000
	その他の肉専用種	258,000	259,000
	乳用種	110,000	110,000
	交雑種	216,000	216,000

(3) 鶏卵の補てん基準価格及び安定基準価格

	令和6年度	令和7年度
補てん基準価格	222円/kg	230円/kg
安定基準価格	202円/kg	207円/kg

(企画管理班 齊藤 陽介)

令和7年4月より予防接種生産者負担金が変更になりました

一般社団法人宮城県畜産協会

令和7年4月1日実施分から、特定疾病自衛防疫推進事業に係る予防接種生産者負担金を下表のとおり改定しましたのでお知らせします。

畜種	ワクチン名	生産者負担金単価(税込)(単位：円/1頭1回)		
		新 令和7年4月1日 実施分から	旧 令和7年3月31日 実施分まで	増 額
豚	豚丹毒(生)	190	185	5
	豚丹毒(不活化)	340	335	5
	豚日本脳炎(生)	640	630	10
	豚日本脳炎(不活化)	640	630	10
	豚バルボ(不活化)	1,060	1,050	10
	豚三種混合	1,580	1,570	10
牛	アカバネ病(生)	2,200	2,140	60
	牛五種混合(生)	2,500	2,450	50
	牛ヘモフィルス(不活化)	1,300	1,250	50

【家畜飼養者の皆様へ】 予防接種前に、家畜の健康観察を行うとともに、接種時の立会い(保定)をお願いいたします。
(家畜衛生課 北谷 せつよ)

令和7年度宮城県獣医師修学資金受給者募集

宮城県農政部家畜防疫対策室
一般社団法人宮城県畜産協会

【修学資金の内容】

県内の産業動物獣医師又は家畜防疫員を志す学生に対し、共同負担者と協会が半額ずつ負担し修学資金を給付します。

【受給者募集の内容】

共同負担者	宮城県	宮城県農業共済組合
給付対象者	獣医学を履修する課程に在学する5年生で、卒業後宮城県職員(農政部:家畜保健衛生所、畜産試験場等)に獣医師として勤務しようとする方	獣医学を履修する課程に在学する4年生以上の学生で、卒業後宮城県農業共済組合に獣医師として勤務しようとする方
募集人員	1名	1名
給付限度額	国公立大学生 10万円/月、私立大学生 18万円/月	
給付期間	大学5年生の6月～6年生の3月までの22ヶ月間	契約した年度の4月～卒業まで
提出書類	①申請書 ②学長の推薦書 ③健康診断書 ④戸籍謄本 ⑤学業成績証明書 ⑥保護者等の収入を証明する書類 ※①、②の様式は、(一社)宮城県畜産協会のホームページよりダウンロードできます。	
提出期間	令和7年4月1日(火)から7月25日(金)まで(当日消印有効)	令和7年9月30日(火)まで
選考日時・場所	令和7年8月予定 宮城県庁	日時は後日連絡。場所は本所予定(応相談)
選考方法	書類審査、小論文及び面接	書類選考、面接
給付条件	県職員採用試験に合格し、大学卒業、獣医師資格を取得し、宮城県職員(農政部、家畜保健衛生所、畜産試験場等)に獣医師として、一定期間以上勤務した場合、給付金全額の返還が免除されます。	大学卒業、獣医師資格取得後、宮城県農業共済組合に獣医師として、一定期間以上勤務すること。
返還義務	給付期間中に退学した場合など、給付条件から外れた場合、原則として返還義務が生じます。	
採用・勤務条件等に関する問い合わせ先	宮城県農政部家畜防疫対策室衛生安全班 TEL:022-211-2854	宮城県農業共済組合 総務課 〒989-6321 大崎市三本木字大豆坂24-3 TEL:0229-87-8281 HP(URL):https://www.nosaimiyagi.or.jp
修学資金に関する問い合わせ先・申請書書類提出先	一般社団法人宮城県畜産協会 総務課 〒983-0832 仙台市宮城野区安養寺3-11-24 TEL:022-298-8471 HP(URL):http://miyagi.lin.gr.jp/vetshuugakusikin/index(vet).htm	

- 希望者は先ず、お電話で内容をご確認ください。
- 宮城県農政部家畜防疫対策室、宮城県農業共済組合以外に給付者を募集したい事業者は、協会までご連絡ください。
- 給付条件の一定期間とは 給付月額が10万円ならば給付期間の2分の3 給付月額が18万円ならば給付期間の3分の5 で計算した期間。

(宮城県農政部家畜防疫対策室衛生安全班 鈴木 歩)
(一般社団法人宮城県畜産協会総務課 山崎 哲)

第32回「仙台牛」の集いが開催されました

全国農業協同組合連合会宮城県本部

令和7年2月5日に仙台牛銘柄推進協議会主催の第32回「仙台牛」の集いが江陽グランドホテルで開催されました。約300名の生産者、食肉市場等の関係者、買参者が出席し交流を深めました。

当日は、小林徳光副知事がプレゼンターを務め、仙台牛普及に多大なる貢献をされた仙台牛優良指定店や生産優良農家等、18組25名が表彰されたほか、宮城県農業高等学校の生徒が和牛甲子園の取り組みを報告しました。

会場では、昨年11月に開催された、農林水産祭参加 第64回仙台牛枝肉共進会にて第1部チャンピオン賞を受賞した、株式会社ライフルファーム菅生様の仙台牛のステーキやしゃぶしゃぶが振舞われました。

(畜産部生産販売課 須藤 駿)

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい!」という方は地方競馬全国協会までご連絡下さい。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト (<http://www.keiba.go.jp/>) でもご覧になれます。

(担当:審査部登録課 電話03-3583-2142)

宮城県への手数料等の納付にキャッシュレス決済が利用できます

宮城県農政部畜産課

宮城県で行っている各種手続きの手数料等について、令和7年2月からキャッシュレス決済での納付が可能となりました。利用できる決済ブランドは図1のとおりです。

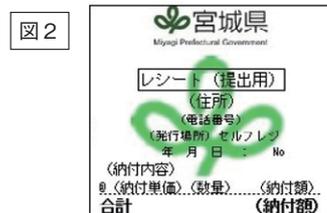
支払方法	決済ブランド
クレジットカード	VISA, Mastercard, UnionPay, JCB, AMERICAN EXPRESS, Diners Club
電子マネー	iD, Edy, nanaco, WAON, QUICPay, 交通系電子マネー (Suica, PASMO, IC, manaca, TOICA, SUGOCA, nimoca, はやかりん)
コード決済	PayPay, d払い, PayPay, Pay, au PAY, BP Bank Pay, 微信支付 WeChat Pay, Alipay+ 支付宝

手数料等の納付方法は、手続きを行う場所によって以下の2通りとなります。

①各家畜保健衛生所（仙台家畜保健衛生所を除く）・畜産振興部での納付

- 各合同庁舎に設置している無人型のセルフレジで、手数料等の納付が可能です。
- キャッシュレス決済（クレジットカード・電子マネー・コード決済）のほか、現金で納付することもできます。
- セルフレジから発行される「レシート（提出用）」（図2）を、各申請窓口へ提出してください。

セルフレジ利用の詳細については、[県HP](#)を参照してください

②仙台家畜保健衛生所での納付

- 職員が操作するキャッシュレス決済端末で手数料等の納付が可能です。
 - キャッシュレス決済のみ利用可能です。現金はご利用できませんので、現金での納付を希望する場合は、県庁や合同庁舎のセルフレジを利用いただくか、県収入証紙をお求めください。
- なお、収入証紙は令和7年9月末（予定）で販売を終了し、購入済みの収入証紙の使用期限は令和8年3月まで（予定）となりますので、お早目のご利用をお願いします。

手数料キャッシュレス決済の詳細については、[県HP](#)を参照してください。



(企画管理班 齊藤 陽介)

NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬（盛岡・水沢開催）4・5月 開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
4月	火	水	木	金	土	日	月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
5月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
					盛岡						盛岡							盛岡								盛岡						

※開催期間中の重賞レース

- ・4/6(日) 第2回ネクストスター北日本
- ・4/15(火) 第50回赤松杯
- ・4/20(日) 第25回留守杯日高賞
- ・4/27(日) 第37回栗駒賞
- ・5/4(日) 第45回ダイヤモンドカップ
- ・5/18(日) 第50回シアンモア記念
- ・5/25(日) 第13回イーハトーブマイル

子牛の体温管理に気を付けましょう

NOSAI宮城

春の気配を感じるようになりましたが、「昨日は半そででもよかったのに、今日は寒いなあ」といった、日ごとの気温変動の大きい時期でもあります。

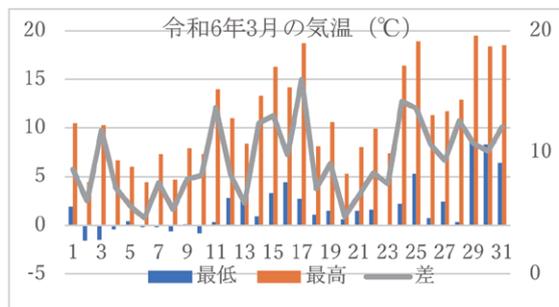
左図は宮城県（仙台）の令和6年3月の最低気温、最高気温、日較差を示していますが、日ごとの気温変動が大きいことが一目でわかると思います。

右表は、令和6年各月の中央家畜診療センター大衡支所管内における子牛の肺炎カルテ数を示しています。肺炎は寒い時期に多くみられますが、気温の日較差の大きい3月も多い傾向にあります。

日中かなり暖かかったので子牛のジャケットを脱がせたら、夜から翌日にかけて冷え込んでしまって発熱してしまうということがおきます。その逆で、昨日冷え込んだから子牛にジャケットを着せたら、今日は汗ばむくらいの気温になり、気付けば呼吸が荒く、熱中症気味になってしまうこともあります。

体重あたりの表面積が大きい子牛（人間の子どもと同じ）は、環境の温度変化の影響を強く受けます。

人も体調を崩しがちな季節の変わり目です。大変かとは思いますが、日ごとの気温変動が大きいこの時期は、特に子牛の体温管理に気を付けてください。



令和6年1月～12月の肺炎件数

1月	116件	7月	40件
2月	98件	8月	63件
3月	119件	9月	77件
4月	80件	10月	81件
5月	75件	11月	127件
6月	62件	12月	99件

令和6年の肺炎件数で1番多かった月は11月(127件)。3月は2番目に多い(119件)。

価格安定対策事業の発動状況について

一般社団法人宮城県畜産協会

◎肉用牛肥育経営安定交付金（牛マルキン）の交付金単価

販売月	肉専用種（宮城県）	交雑種（全国）	乳用種（全国）
令和6年10月（概算払）	(99,251.3円)	(— 円)	(35,574.5円)
精算払	106,251.3円	3,477.6円	42,574.5円
11月（概算払）	(— 円)	(— 円)	(32,900.6円)
精算払	6,902.1円	— 円	39,900.6円
12月 精算払	— 円	— 円	40,308.3円
令和7年1月（概算払）	(16,606.1円)	(— 円)	(46,238.6円)

◎肉用子牛生産者補給金（子牛補給金）の交付金単価 令和6年度第3四半期

	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
補給金単価	42,100円	— 円	— 円	— 円	— 円

◎優良和子牛生産推進緊急支援事業の奨励金単価 令和6年度第3四半期

	取組数2	取組数3	取組数4以上
奨励金単価	10,000円	20,000円	30,000円

※平均販売価格が発動基準価格（570,000円）を下回ったため、最高で30,000円が交付されます。

◎肉豚経営安定交付金（豚マルキン）の交付金単価 令和6年度第2四半期 交付なし

	<p>宮城県産黒毛和種</p> <p>仙台牛公式 Instagram</p>	<p>6月1日は</p> <p>WORLD MILK DAY</p> <p>宮城県牛乳普及協会</p>
--	--	---

〈衛生便り〉

鳥インフルエンザ等の発生に備えた防疫演習を開催しました

宮城県東部地方振興事務所畜産振興部

鳥インフルエンザや豚熱等の特定家畜伝染病の発生に備え、関係機関との役割分担の確認と連携強化のため、10月22日(火)に石巻合同庁舎にて防疫演習を実施しました。演習では、机上演習と初動対応の訓練を行い、机上演習では管内養鶏場での発生を想定し異状鶏の通報から対策会議の開催、防疫作業の開始まで、発生時の実際の流れを意識しながら関係機関との情報伝達訓練を実施しました。

初動対応訓練では、石巻合同庁舎大会議室に支援センターを設置、屋外には農場テントを設営しました。その後、支援センターでの従事者の受付から防護服の着脱とそのサポート、従事後の体調調査まで、それぞれの役割分担や初動対応における準備・手順などを一つ一つ確認しました。演習により参加者は、発生時の支援センターでの人の動きや従事者とサポート班の連携について認識を深めることが出来ました。

今回の演習を特定家畜伝染病発生時における迅速な初動防疫体制の確立に活かしてまいります。

また、家畜伝染病の侵入防止を図るには、飼養衛生管理基準の遵守徹底に努めることが重要ですので、生産者の皆様には管理状況の確認と対応強化をお願いします。
(畜産振興班 熊谷 弘明)



従事者の受付・体調チェック



防護服の正しい着衣方法を確認

〈農業大学校生の抱負〉

自分の農業の道

宮城県農業大学校 畜産学部 2学年 小川 恵大



私の家では、水稻と繁殖牛を10頭飼育し繁殖経営を行っています。また、牧草地で自給粗飼料を生産しています。幼少の頃から、田植えや稲刈り、草地での手伝いや牛の飼養管理の手伝いをしてきました。特に牛との触れ合いはとても楽しい時間で、農家でなければ経験することのできない時間でした。生き物の成長を間近で見るととてもやりがいを感じられる畜産の魅力です。この経験から、将来は農業でたくさんの人を笑顔にしたいと思うようになりました。

そこで、将来に向けて必要な知識と技術を身に付けられる宮城県農業大学校に進学しました。1年生では、9月から10月にかけて岩出山の和牛繁殖経営の牧場で約1ヶ月間の先進農業体験学習を行いました。牛の飼養管理や餌のやり方の順番などを学び、牛に関する知識を得ることができました。また、水稻の管理方法などについても学べ、とても充実した1ヶ月になりました。また、この1年間は色々な人との出会いもあり、

実りの多い年になりました。2年生では、より多くの知識を得ると同時に、家畜人工授精師や牛削蹄師の資格取得を目指し、日々勉強していきたいと考えています。

将来、私は畜産業の楽しさを非農家の人にも伝えられる経営者になりたいと思っています。「面白い！やってみよう！」とたくさんの人に思ってもらえるように、より楽しい農業や感動を伝えていきたいです。また、私には「3Kを無くした畜産をやりたい」という目標があります。飼養管理の方法や牛舎の構造を見直し、3Kをなるべく少なくし、自分自身が楽しい畜産を実践することで、畜産業の魅力をたくさんの人に届けられる畜産農家になれるように日々努力していきます。



 ハードシステムとソフトシステム
 (ビフォー&アフターサービス)で
 あなたの経営を応援。
 これがオリオンの思想です。
中央オリオン株式会社
宮城県東部 〒980-4226 大崎市石巻市立町4番1号
 TEL 0225-26-4300 FAX 0225-26-4308



農業共済新聞
宮城県農業共済組合
 TEL 0229-87-8281

次の一手を未来につなげたい

 総合印刷企業
株式会社 東北プリント
〒980-0822 仙台市青葉区立町24番24号
 TEL 022-263-1166 FAX 022-224-3986
 E-mail mail@tohokuprint.co.jp

〈畜試便り〉

宮城県養豚研究会 令和6年度第2回研究集会を開催

宮城県畜産試験場

令和7年2月28日、宮城県養豚研究会（事務局：宮城県畜産試験場）主催による令和6年度第2回研究集会を古川商工会議所研修室にて開催しました。会場参加者は40名、オンライン参加者は24名と多数の皆様に参加いただき、盛会裡に終了しました。

今回の研究集会は、養豚経営に起因する悪臭や水質汚染などの苦情発生率が近年横ばいで推移していることを踏まえて、「豚ふん堆肥を活用した環境対策について考える」をテーマとして開催しました。

はじめに、宮城県農政部家畜防疫対策室衛生安全班の佐沢技術主任主査から、県内における豚熱及びアフリカ豚熱対策について情報提供いただいた後、新潟食料農業大学学長の中井裕氏と有限会社石上ファーム代表取締役社長の石川貴泰氏よりご講演をいただきました。

中井氏からは、「豚ふん堆肥化研究・技術の現状」と題して、代表的な堆肥処理方法の紹介や、新潟食料農業大学で行った豚糞堆肥化試験の取り組みなどをご説明いただき、良質堆肥を生産し、排泄物からあらたな価値を生み出すことが必要との提言がありました。

石川氏からは、「堆肥・液肥を活用した地域密着循環型農業」と題して、自社農場の堆肥・液肥の生産や販売についてご説明いただきました。石川氏は、霞ヶ浦水質保全条例により放流ができない地域での経営を余儀なくされる中、野菜農家が多い強みを活かして良質堆肥の生産を決意し、マニアスプレッター車を導入し散布を請け負うなど積極的な販売活動を通じて200名以上の堆肥ユーザーを獲得しているとのことでした。

また液肥については、無料液肥給水所を設置する一方、地元スーパーでボトル入り液肥を販売し、耕種農家への浸透を図っているとのことでした。

その後の総合討論では、中井氏に対して、堆肥の成分分析の頻度について質問があり、成分が安定すれば年2回程度の分析で十分であるが、最終的にはユーザーである耕種農家のニーズに応じた対応が求められるのではとの回答をいただきました。

石川氏に対しては、水質保全条例など厳しい経営環境の中で、どのようにメンタルを保っているのかとの質問がありました。石川氏からは、柔道を通じて培った精神力を活かし、前向きに取り組むことを大切にしており、失敗しても命を失う訳ではないという気持ちで解決策を模索し、時には友人や知人を頼ることも必要で、何事も楽しむことが重要との回答がありました。

なお、次回の研究集会は、令和7年7月の開催を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

(種豚家きん部)



〈人の動き〉

宮城県

退職（令和7年3月31日付）

農政部長
農政部副部長
東部家畜保健衛生所長兼東部地方振興事務所登米地域事務所畜産振興部長
北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部技術次長（副班長）
畜産試験場上席主任研究員兼食肉衛生検査所
東部家畜保健衛生所技術主幹
畜産試験場主幹（副班長）兼農業大学校
家畜防疫対策室技術主任主査
東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部技術主査
東部地方振興事務所農業振興部

橋本 和博
横水ゆう子
清水知和
石川伸和
高橋正典
千葉真智
菅原公子
佐沢敦子
松原本佳奈

令和7年4月1日付

Table with 3 columns: 新 (New), 旧 (Old), 氏名 (Name). It lists personnel changes across various departments including Agriculture, Animal Health, and Regional Development.

全国農業協同組合連合会宮城県本部

定年退職（令和7年3月31日付） 畜産部生産販売課仙台畜産事業所長
退職（令和7年3月31日付） 畜産部生産指導課嘱託

千葉 茂美
上野 新英

令和7年4月1日付

新	旧	氏名
畜産部次長	畜産部次長兼市場流通課長兼みやぎ総合家畜市場長	千葉 勝彦
畜産部市場流通課長	管理部付外向 JA全農くみあい飼料株式会社	櫻井 弘幸
畜産部生産販売課仙台畜産事業所長	畜産部生産販売課仙台畜産事業所調査役	長山 久志
管理部付外向 JA全農くみあい飼料株式会社	畜産部生産販売課調査役	熱海 幾哉
畜産部生産販売課	園芸・生産振興部園芸販売課	渥美 大峻
畜産部生産販売課仙台畜産事業所	畜産部生産指導課	山下 幸佑
畜産部市場流通課	畜産部生産販売課	高橋 春佳
畜産部生産販売課	(新規採用)	茂木 達也
畜産部生産指導課	(新規採用)	渡邊 稀大
畜産部生産指導課嘱託	(再雇用)	千葉 茂美

宮城県農業共済組合（NOSA I 宮城）

依頼退職（令和7年3月31日付） 中央家畜診療センター所長
退職（令和7年3月31日付） 県南家畜診療センター嘱託職員
県南家畜診療センター嘱託職員
家畜診療研修所兼中央家畜診療センター大衡支所嘱託職員

早坂 久範
水沼 敏男
大石 武志
木村 有一

令和7年4月1日付

新	旧	氏名
本所 第二事業部長	本所 第一事業部長	千葉 勝彦
本所 第二事業部家畜課長兼第二事業部家畜診療課長補佐	本所 第二事業部家畜課長	原 英博
本所 第二事業部家畜診療課長	本所 県南家畜診療センター診療課長兼損防課長	坂井 靖
県南家畜診療センター所長兼庶務課長	県南家畜診療センター所長	河野 充彦
県南家畜診療センター診療課長兼損防課長	県南家畜診療センター損防課長補佐	馬場 久美子
県南家畜診療センター診療課長補佐	県北家畜診療センター診療課診療係長	小堤 晃博
県南家畜診療センター損防課技師	県南家畜診療センター診療課技師	古田 紗也加
中央家畜診療センター兼家畜診療研修所所長兼中央家畜診療センター古川支所所長兼中央家畜診療センター古川支所庶務課長	家畜診療研修所兼中央家畜診療センター大衡支所所長兼庶務課長	川名 晶子
中央家畜診療センター兼家畜診療研修所次長兼診療指導課長兼損防指導課長兼中央家畜診療センター古川支所次長	家畜診療研修所兼中央家畜診療センター大衡支所損防指導課長兼診療指導課長	加納 茂太
中央家畜診療センター兼家畜診療研修所庶務課長	県南家畜診療センター庶務課長	石川 瑞子
中央家畜診療センター兼家畜診療研修所診療指導課技師	(新規採用)	斎藤 萌佳
中央家畜診療センター古川支所損防課損防係長	中央家畜診療センター診療課診療係長	佐藤 めぐみ
中央家畜診療センター古川支所診療課技師	(新規採用)	金井 菜月
中央家畜診療センター古川支所診療課専門技術員	(再雇用)	早坂 久範
県北家畜診療センター診療課診療係長	家畜診療研修所兼中央家畜診療センター大衡支所損防係長	新井 偉典
県北家畜診療センター診療課技師	(新規採用)	野々村 謙伸
県北家畜診療センター診療課技師	(新規採用)	長田 桃佳
県北家畜診療センター庶務課専門員	中央家畜診療センター庶務課専門員	千葉 義則

一般社団法人みやぎ農業振興公社

令和7年4月1日付

新	旧	氏名
畜産・農村振興部 参事 坪沼農場勤務※白石牧場兼務	原種苗部 参事	土生 良樹
畜産・農村振興部 白石牧場技術主査	畜産・農村振興部 白石牧場技師	天野 寛人
畜産・農村振興部 畜産振興班主事※農地整備班兼務	畜産・農村振興部 畜産振興班主事	鈴木 魁人
畜産・農村振興部 畜産振興班技師	畜産・農村振興部 畜産振興班技師※坪沼農場兼務	柴田 沙来
畜産・農村振興部 白石牧場技師	(新規採用)	阿部 未奈

一般社団法人 宮城県畜産協会

退職（令和7年3月31日付） 参事兼家畜衛生課長
中央事業所長
仙南事業所相談員

伊藤 敦
山下 幸作
岸田 忠政

令和7年4月1日付

新	旧	氏名
総務課長兼家畜衛生課長	総務課長	鳥貫 稔
家畜改良課長兼仙南事業所長	家畜改良課長	芳賀 巧
中央事業所長	家畜改良課長補佐	石川 正志
総務課主査	総務課主事	高橋 理恵
経営支援課技師	経営支援課嘱託	加川 響馬
家畜改良課技師	(新規採用)	遠藤 航
価格安定課技師	(新規採用)	高橋 美波
経営支援課嘱託	事務員	菱沼 明

宮城県動物薬品器材協会(会員名)

(株)アスコ宮城営業所

仙台市泉区泉中央4丁目19-1 TEL022-347-4138

小田島商事(株)

大崎市古川清水字周防10-1 TEL0229-26-4567

M P ア グ ロ (株)

仙台支店 仙台市太白区富沢南二丁目8-9 TEL022-245-4306

(株)アグロジャパン南東北営業部宮城チーム

仙台市泉区八乙女3-3-1 TEL022-343-5301